

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用 2023年度

【事業所概要】

法人名	医療法人 オホーツク勤労者医療協会	事業所名	看護小規模多機能たんぽぽ
所在地	(〒 090-0817) 北見市常盤町5丁目4番7		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

医療ニーズがある利用者などの療養生活を看護と介護が一体となり、自宅で安心して過ごすことができるように、365日24時間支援いたします。また、ご家族にとっても仕事と介護が両立できる環境を支援いたします。介護が必要になっても慣れ親しんだ地域でその人らしい生活をして、楽しくて、利用してよかったと思っただけの取り組みをめざします。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 2 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(13) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 8 月 9 日	出席人数(合計)	(4) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員(3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員(____ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員(1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者(____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者(____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族(____ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者(____ 人) <input type="checkbox"/> その他(____ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>事業所理念に基づいて利用者支援を実践し、内部、外部研修やステップ研修など学習の機会を持ちながら質の向上やスキルアップにつながる様職員の育成を実践していきたい。また、定期的に育成面接を実施し個人のやりがいに繋げていきたい。</p> <p>事業継続計画の実践として、安全管理、感染対策、緊急時対応など職員個々が求められる対応ができるよう訓練を行いたい。</p>	<p>毎月の部会内で事業所の理念を確認し、利用者への支援方法などの振り返りを行いながら、サービスの質の向上につながるよう学習を企画し、職員自ら講師になって学習を行った。</p> <p>今年度は、法人の介護職員全員で認知症サポーター養成講座に参加する目標を作り、介護職員全員が受講することが出来た。また、看護小規模多機能たんぼぼの職員7名が喀痰吸引研修にも取り組みを行っている。</p> <p>今年度も事業所内で新型コロナ感染者が発生したが、お泊りサービスも感染対策を行いながら継続し利用者・家族を支えることが出来た。</p>	<p>毎月、職員自ら講師になっての学習を継続し学びにつながっている。</p> <p>個々人のやりがいについては、定期的な面談が実施できなかったが、今年度の法人の活動目標でもあった認知症サポーター養成講座や喀痰吸引研修にも取り組むことが出来ており、スキルアップにつながる研修に取り組んでいると思う。</p> <p>新型コロナ感染症が発生したが事業継続計画を実践し、帰宅困難な感染者のお泊り利用についても継続し在宅生活を支えることが出来た。</p>	
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>協力医療機関との連携を図りながら、介護職と看護職が協力し支援の情報を共有し実践していきたい。</p> <p>看取り支援についても学びを継続し、安心して人生の最期を迎えられる支援を実践したい。</p>	<p>事業所内での看取り支援はなかったものの、病院への入院までの期間や在宅生活でのターミナルケアについて、医療機関とも連携を図りながら看護師、介護士間の情報を共有し2名の支援を行った。</p>	<p>支援させていただいたご家族より、「たんぼぼさんでよかった」「安心しました」との言葉を頂くことが出来た。</p> <p>今後も学習を継続しながら、安心して過ごしていただけるよう実践していきたい。</p>

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	安心して在宅生活を継続できるよう引き続き、他機関・多職種との連携を強めたい。質の向上について、法人内のリハビリ技士や管理栄養士専門職にも協力を頂きながら、定期的な学習の機会や相談を行える体制作りを構築したい。	法人内のリハビリ技士の協力を頂きながら、利用者の歩きたい思いに対し歩行状態の確認や支援方法についてアドバイスを受け個別のリハビリを継続するなどの支援を実施した。	病院内で新型コロナウイルス感染症などのクラスターが発生したこともあり、定期的な支援体制を作ることが出来なかったが、今後も利用者の身体状況に合わせて、安全に支援が行えるよう学習の機会を作っていきたい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	看多機の役割として、訪問看護と一体となってサービスが提供されることで緊急時に柔軟に対応できる等の特徴を地域に知ってもらい取り組みや発信を行いたい。	事業所の利用について問い合わせを頂いた際は、実際に事業所の見学を頂きながら特徴など説明などを行っている。	事業所の利用について問い合わせを頂く際は、看護の支援について希望される方が多いが、今後も看護・介護一体で利用できることを発信できるよう取り組んでいきたい。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	誰でも地域で安心して住み続けられるよう、看多機の役割を發揮し主治医、看護師、関係各所と密に連携を図り利用者・家族を支えていきたい。	今年度、共生型放課後等デイサービスにて、関係機関や医療機関とも連携しながら2人目の医療ケアが必要な児童の受け入れを行っている。	2人目の医療的ケアが必要な小児を共生型デイサービスで受け入れを行ったことで、児童にとっても高齢者にとっても、互いに刺激を受けながら過ごす様子が見られている。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	年間計画を立て、研修会を開催する。 災害時の対応に課題がある。	利用者・ご家族様が安心した生活を送るため、適切な支援がえるよう、研修会への参加や学習の機会を持ち技術や知識の向上を図り職員の育成を実践していきたい。 事業継続計画の実践として、安全管理、感染対策、緊急時対応

			など職員個々が求められる対応ができるよう訓練を行いたい。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	医療対応等は今後増えてくることが予測される。看護職・協力医療機関との情報共有、連携強化が求められる。	協力医療機関との連携、介護職と看護職の協力を継続し安全・安心の支援が提供できるよう努めたい。 看取り支援についても、現在実施している喀痰吸引等研修を通し知識・技術を身に着け、安心して人生の最期を迎えられる支援を実践したい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	入院から在宅へ安心して移行できるよう、多職種との連携強化が求められている。	筋力低下や生活の質の低下を防ぎ、在宅生活を継続できるよう、法人内のリハビリ技士や専門職にも協力いただき定期的な学習の機会や相談を行える体制作りを構築していきたい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	看多機の役割を地域に広め、地域包括ケアシステムを構築する役割を担っていく。	地域への取り組みに参加しながら、看多機の役割として、訪問看護と一体となってサービスが提供されることで緊急時に柔軟に対応できる等の特徴を地域に知ってもらい取り組みや発信を行いたい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	地域のなかで誰もが安心して在宅生活を送ることができるよう支援をしていく。		看護小規模多機能たんぼぼでは、高齢者支援と共生型放課後等デイサービスで医療的ケア児の支援を同時に行い、地域での生活の場を提供している。今後も看多機の役割を発揮し主治医、看護師、関係各所と密に連携を図り利用者・家族を支えていきたい。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			職員が喀痰吸引の研修を受けられている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者は2月の時点で17名いる。 ・インスリン注射対応者 1名 ・ターミナルケア 2名 ・内服セット支援 6名 ・在宅酸素 3名</p> 利用者本人や家族からの意見を頂きながら、より良いサービスを提供できるよう支援を行っている。					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 入職時や中途採用職員に対し、法人の綱領学習を位置づけ、事業所内でも看多機の役割について学習会や介護・福祉の理念について学習の機会を設けている。 </p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容] 毎月の部会内で事業所の理念を確認し、利用者への支援方法などの振り返りを行いながら、サービスの質の向上につながるよう学習を企画し、職員自ら講師になって学習を行っている。</p>					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 法人の中長期的経営計画を学習しながら事業所の役割などを部会内で確認し、今年度は認知症サポーター養成講座や喀痰吸引研修にも取り組んでいる。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
<p>〔具体的な状況・取組内容〕 毎朝、介護職員・看護師・ケアマネジャーが参加して情報の共有が行える機会を設けている。また、必要時にはカンファレンスを開催、月に1回部会を開催し情報共有を行っている。</p>							
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
<p>〔具体的な状況・取組内容〕 運営推進会議を開催後は、紙面を用い職員へ内容の報告し共有を図っている。</p>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			<p>情報共有は重要です。今後、不参加の職員に対しても伝達をお願いします。その事は質の向上、家族の信頼につながると考えます。</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 毎日、朝会を実施し情報を共有しているが、参加できない職員もいるため、業務日誌やカンファレンスノートでも共有の機会を設けている。他、業務リーダー同士の申し送りも行いながら情報共有ができるよう工夫を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保の		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足	
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない			
	ため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 事故防止対策や個人情報保護の学習を実施している。アクシデント・インシデントは口頭と書面で報告し、内容は朝会やカンファレンスでも報告し、対応は月1回の部会で評価している。				ヒヤリハット等あれば、職員間で事故が起きない工夫をされ共有している。	対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます	
② 災害等の緊急時の体制の構築								
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○				<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 緊急連絡先リストは都度更新している。センター内で自然災害のBCPについて机上訓練を実施した。今年度も事業所では、利用者に新型コロナウイルスの陽性者が発生したが、帰宅が困難な利用者に対してお泊りサービス支援を継続したり独居の利用者宅への訪問などを継続し事業の継続を行った。後日、対応の振り返りなども行い、改めて対応を学習した。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価								
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供								
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成								

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま りで きて いな い	全く でき てい ない		
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> ケアマネージャが訪問時、生活状況や家族の介護状況を把握し計画を作成している。一体で運営している訪問看護の職員とは、カンファレンスを行い情報共有を行っている。</p>					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> カンファレンスや介護計画の作成時、介護職・看護職で話し合い共有している。</p>					
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	目標の達成に向けた計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ケアマネが、利用者宅への月1回の訪問・モニタリングを実施し、利用者や家族の意向を確認しながら介護計画を作成している。					者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			個人の能力には差があると思いますが、利用者個人の課題を明確にし、支援していることは素晴らしいと考えます。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 状況変化の予測や緊急時の対応について、必要に応じて主治医にも連絡を取りながら、看護師とも連携し支援を行っている。また、利用開始時や利用状況を見ながら、ご家族にもリスクについて説明	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		し看護職と協力し計画を作成している。					
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
[具体的な状況・取組内容]							
利用者の状況変化時は、カンファレンスを行い必要な計画の変更を行っている。							
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
[具体的な状況・取組内容]							
ケアマネが毎月利用者宅を訪問しモニタリングを行い、必要な支援について検討している。							
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有		○				<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
[具体的な状況・取組内容]							
医療機関や訪問看護、訪問薬剤師、福祉							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	されている	用具事業所、リハビリ担当者等と目標達成状況について意見交換をしている。 状況や状態の変化があればカンファレンスを行い、入院時には情報提供し必要時、医師からの病状説明への同席や退院時カンファレンスなどにも参加している。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 介護職として、送迎介助や通所時にレクリエーション、入浴・排泄などの身体介助の提供を実施。また、訪問を通し日常生活を観察しながら看護師に報告し情報共有を行っている。看護師は体調の確認を行いながら必要に応じて病院との連携や主治医に報告を行うなど専門性を活かした役割分担を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				<p>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 毎朝のミーティングやカンファレンスなどで情報を共有している。インシデントやアクシデントが発生した際は、お互いに意見交換しながら対策を検討している。</p>					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			<p>北見市への事故報告で誤薬が5件報告されています。服薬マニュアルに沿って実施してください。</p>	<p>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師からの病状や予後予測、床ずれや転倒予防、体調管理、服薬など状況に合わせて情報提供および提案について、朝のミーティングやカンファレンスにて行っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 重要事項説明書やパンフレットを用いて説明している。サービス内容はその都度説明し了解を得ながら行っている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 医療機関から受けた療養上の留意点については担当者会議などで説明しプランに反映させている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 医療処置など、看護師より利用者・家族へ支援方法などを説明しており、実施状況等についても確認している。在宅酸素療法の機器管理やインスリン注射が必要な利用者についてもかかりつけ医との連携を行いながら情報共有を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者・家族より意思の聞き取りなども行いながら出された意見などについて、カンファレンスを開催しサービスの提供に反映させている。ご本人の意思決定が困難な場合は、ご家族と支援方法についての意向を確認し検討している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者の身体機能の状況や家族の介護力・不安なども確認しながら、今後必要とされるサービスについての説明や調整などについて相談・検討を実施している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向		○				✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできてい
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ターミナルケアを実施する前に、医師・看護師・家族・スタッフを交えて支援方					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等を記録として残している	法や意向を確認し支援を実施している。 また、体調の変化が見られた際は、都度 家族への連絡や予測される経過・状態を 説明し記録に残している。					る」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくこ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足 とが重要です
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 勤医協北見病院と医療連携している。緊急時は365日24時間訪問看護が対応し、かかりつけ医に連絡する等の連携体制が構築されている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている			○		R5年度 1回の出席で大変申し訳ございません。今回6回目の事業所評価については3月中に送って頂きたかったです。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、地域包括支援センター・市区町村職員・地域住民・利用者家族へ運営状況について報告や意見交換を行っている。 事業所評価が遅くなり、北見市・地域包括支援センターなどが行う外部評価に必要な情報発信・情報共有が年度内にできなかった。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 玄関内に掲示し誰でも内容を確認できるようにしている。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> オホーツク勤労者医療協会にて、ホームページを開設し「看護小規模多機能たんぽぽ」についても紹介・周知している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○					<p>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</p> <p>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		せた支援が行えるよう進めている。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 北見市で唯一の看護小規模多機能であり、地域包括ケアの構築に必要な事業所である。学習会や研修会にも参加しているが、十分に伝えきれていない。					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> サービス提供エリアは、特定の集合住宅に限定していない。北見市内の利用者に対しサービスを提供している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 居宅介護支援事業所等巡回訪問時、包括支援センターとの意見交換を行わせていただいている。事業所で課題があればケア会議にかける等していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者や家族に対し、口腔ケアの方法や食事の提供形態、体位交換やオムツ交換方法について介護支援を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えてい

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							くなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」
番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価							
① 計画目標の達成							
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	①. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u>					✓ 「計画目標の達成」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感							
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	①. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u>	1 回しか運営推進会議に参加して、残りの資料で判断すると、①と考えます。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します		
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	①. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u>	1 回しか運営推進会議に参加して、残りの資料で判断すると、①と考えます。		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」		